

1. 単元で取り上げる指導事項を確認する。

① 年間指導計画等を基に、本単元で取り上げる指導事項を確認しましょう。

② 当該単元で指導する指導事項について、学習指導要領解説のページを開いて、具体的な内容や系統性を確認しましょう。

例えば、第3学年及び第4学年「読むことウ」では、学習指導要領解説を読んで確認すると、「**目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること**」の中で、「**文章の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして文章の内容を短くまとめる**」力を身に付けさせることが必要であると確認できます。

③ 育成を目指す資質・能力に関する児童の実態や既習事項を確認しましょう。

2. 単元の目標と言語活動を設定する。

① 単元の目標を設定しましょう。

確認した本単元の指導事項と当該学年の「学びに向かう力、人間性等」の目標から単元の目標を設定します。

(1) 「知識及び技能」の目標
(2) 「思考力、判断力、表現力等」の目標

基本的に指導事項の文末を「～できるようにする。」として示す。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」の目標

いずれの単元においても、当該学年の「学びに向かう力、人間性等」の目標に示されている「言葉が持つ価値～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示し、文末は「～するようにする。」として示す。

② 言語活動を設定しましょう。

言語活動例を参考に目標を実現するために適した言語活動を設定します。この時に併せて行う必要があるのが「**学習者の視点に立った教材研究**」です。児童の実態に応じ、教科書を含めた素材をどのように教材化したか、どのような手段(言語活動等)によって資質・能力を育成するのかが考えやすくなります。

また、実際に言語活動を教師が行って見て、資質・能力の育成が図られるかを確認することも大切です。

<素材研究にチャレンジ！>

○素材研究とは…素材自体がもっている特徴を明らかにすること。

【例】「世界にほころ和紙」(「国語4下はばたき」(光村図書))

○どのような文章構造になっているか
・「はじめ」(①②) 「中」(③～⑨) 「おわり」(⑩)
・「中」は③～⑥と⑦～⑨に分かれる

○要約のポイントとなる中心となる文と具体例
・筆者の考え…より多くの人に和紙を使って欲しい。
・和紙のよさ…>やぶれにくくなかもちする特徴(よさ)がある
 >わたしたちは和紙の風合いを美しいと感じ、自分の気持ちを表す方法の1つとして選んできた

*素材の特徴を生かし、指導事項を身に付けさせるためには、どのような言語活動が必要か？

(言語活動) 伝統文化について調べて分かったことをもとに、自分の考えを伝えよう。

3. 単元の評価規準を設定する。

<評価規準作成のポイント>

- 「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価規準作成のポイント
 - ・基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、その**文末を「～している。」として、評価規準を作成する。**
 - ・育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。
 - ・「思考・判断・表現」の評価規準については、その冒頭に、当該単元で指導する一領域について、「(領域名)において」と明記する。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準作成のポイント
 - ・「粘り強さを発揮してほしい内容と自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価できる評価規準を作成する。
 - ・次の①～④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫して作成する。〔①粘り強さ ②自らの学習の調整 ③他の2観点において重点とする内容 ④当該単元の言語活動〕

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ)	「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C1)ウ)	粘り強く、文章を読んで理解したことに基づいて、考えをもち、学習課題に沿って、まとめたことを伝えようとしている。

4. 「指導と評価の計画」を作成する。単元の指導計画(例)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	・学習のねらいや進め方を捉え、学習の見通しをもつ。	・地域の伝統や文化について、資料を基に考えたことを、ALTに伝えることを知らせる。	
2 3 4	・「世界にほころ和紙」を読み、文章構成と内容を把握する。	・文章構成について、図を使って構造的に捉えさせる。 ・文章構成をもとに、筆者の考えと、その理由が書かれている段落を確認させる。 ・例文を参考に、中心となる語や文、例として挙げられている部分を読み分けさせる。	[知・技] ノート ・段落の役割を理解するとともに、段落相互の関係を整理している。 [思・判・表] ノート ・中心となる語や文を選んで表に整理している。
5	・筆者の考えが伝わるように、気を付けながら文章全体を要約する。	・整理した中心となる語や文を使って、200字程度で要約させる。	[思・判・表] ワークシート ・中心となる言語や文を使って要約している。

「指導と評価の計画」を作成する際には、主たる学習活動の流れに沿って、**どの時間に何を評価するかを整理**します。

このとき、評価する内容は、「単元の評価規準」と対応していることが重要です。評価方法についても、評価する内容をそれぞれ評価するために、どのような方法で評価するかを確認しておきましょう。

また、児童全員の学習状況を記録に残す場面の精選するとともに、単元の目標の達成状況を確実に把握するため、「指導と評価の計画」を立てることが重要であることをご確認ください。

5. 単元の評価計画をもとに、本時の評価規準を具体的に定める

「指導と評価の計画」を基に、「Bと判断する児童」について、具体的な姿を想定し、本時の評価規準を設定しましょう。

<評価規準の具体例> 第4時
例文を参考にしながら、各まとまりの「中心となる語や文」を、筆者が「例としてあげている部分」と区別して捉え、表に整理している。

早わかり！単元計画の作成手順

～中学校 社会 第1学年
「世界各地の人々の生活と環境」
を例にして～

1. 指導内容(指導事項)を確認する ……「学習指導要領解説」を読みましょう！

- 指導すべき内容を指導者が分かっていなければ、子どもに力をつけることはできません。
- 「学習指導要領」には、下のように指導内容が示されています。
- アは、知識及び技能です。イは、思考力、判断力、表現力等です。



ア 次のような知識を身に付けること。

- (ア)人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解すること。
- (イ)世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解すること。その際、世界の主な宗教の分布についても理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (ア)世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現すること。

※「学びに向かう力、人間性等」に関わる事項は、「2 内容」に示されていません。

よって、単元の評価規準を作成する際は、「学習評価に関する参考資料」の「分野別の評価の観点及びその趣旨」に示されている「主体的に学習に取り組む態度」を参考にします。

2. 単元の目標を設定する ……単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

- 指導内容をしっかり理解した上で、単元の目標を設定します。
- 1つ目と2つ目が「知識及び技能」、3つ目が「思考力、判断力、表現力等」、4つ目が「学びに向かう力、人間性等」です。



- ・人々の生活は、その生活が営まれる場所の気温や降水量、標高などの自然的条件及び、宗教や歴史的背景、科学技術の発展などの社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解できるようにする。
- ・世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性ととも、世界の主な宗教の分布について理解できるようにする。
- ・「なぜ世界各地では人々の生活に多様な特色が見られるのか。また、なぜそれは変容するのか」を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。
- ・世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野に各地の人々の生活の特色やその変容の理由を、主体的に追究しようとする態度を養う。

3. 単元の評価規準を設定する ……評価のための判断のよりどころを決めましょう！

- 「内容のまとまり」を一つの「単元」として設定する場合、「知識・技能」と「思考・判断・表現」については、学習指導要領に示された事項の語尾を書き換えれば評価規準になります。
- 「主体的に学習に取り組む態度」については、「学習評価に関する参考資料」の「分野別の評価の観点及びその趣旨」に示されている「主体的に学習に取り組む態度」を基に評価規準を作成します。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。	①世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	①世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
②世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解している。その際、世界の主な宗教の分布についても理解している。		

- 上記を「単元の評価規準」として使用する以外に、上記の「単元の評価規準」を踏まえつつ、学習指導要領解説等の記述を用いて具体的な「単元の評価規準」を設定することも考えられます。
- とりわけ社会科は、各単元において特定の社会的事象を取り扱い、主題や設定する問いも具体的な事象を基に設定されることが一般的です。
- よって、具体的な目標及び評価規準の設定も、指導と評価の一体化を促す一つの工夫となります。



社会



4. 指導と評価の計画を作成する

- 単元の評価計画を単元の展開計画と合わせて作成していきます。
- 全9時間の中で、何時間目にとどの観点のどの評価規準について、どのような方法で評価するか、計画を立てます。
- 単元の評価規準に「技能」に関わる評価規準がない場合でも、「内容の取扱い」や学習指導要領解説の巻末「参考資料3」を参考に、生徒の習熟等を考慮した上で、適宜「技能」に関わる評価場面を設定し、学習改善につなげます。

単元の指導計画(例) 第1学年社会科「世界各地の人々の生活と環境」

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

時	学習活動	評価規準	評価の方法
1	・単元で登場する各地の人々の生活の様子を表すいくつかの景観写真から、気付くことや疑問を出し合い、ワークシートに記述するとともに、単元の学習の見通しをもつ。	<主体的に学習に取り組む態度①> ●世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	【発言分析】【記述分析】 発言内容、ノートの記述内容から「世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしているか」を評価する。
【学習課題；単元を貫く問い】「なぜ世界各地では人々の生活に多様な特色が見られるのか。また、なぜそれは変容するのか。」			
2	・景観写真や雨温図等を用いて、気候の特色をつかむ技能を身に付ける。 ・フィジーやボリビアで暮らす人々が、気温や高度の影響を受けて、どのような農業を行ったり、住居や衣装を利用したりしてきたのかを考察する。	<知識・技能(技能)> ●景観写真や雨温図等を基に、情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 <知識・技能①> ●人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。	【発言分析】【記述分析】 発言内容、ノートの記述内容から「景観写真や雨温図等を基に、情報を収集し、読み取る技能を身に付けているか」を評価する。 【発言分析】【記述分析】 発言内容、ノートの記述内容から「人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解しているか」を評価する。
(中略)			
8	・ワークシートの気候帯の分布図や宗教分布図上に、学習した特色ある生活や変容に関する写真を貼り、それが見られる主な理由を書き添えて、これまでの学習内容をまとめる。	<思考・判断・表現①> ○世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	【記述分析】 ワークシートの記述内容から「世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現しているか」を評価する。
9	・単元の学習を振り返って、関心をもちさらに調べたいことやよく分からなかったこと、学習に向かう姿勢などを自己評価し、ワークシートに記述する。	<主体的に学習に取り組む態度①> ○世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	【発言分析】【記述分析】 発言内容、ノートの記述内容から「世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしているか」を評価する。

5. 単元の指導計画(指導と評価の計画)をもとに、本時の評価規準を具体的に作る

【単元の評価計画にある第2時の評価規準】

人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。

【具体的にした第2時の評価規準】

具体的に作る

フィジーやボリビアの人々の生活は、気温や降水量、高度などの自然条件から影響を受け、その場所に適した農業、住居や衣装になっていることに気づき、ワークシートに記述している。

住む地域の気候や高度に適した作物を栽培している。住居や衣装もその地域で快適に過ごせるよう、工夫がされている。

住む地域によって作物、住居や衣装が違っている。

具体的な支援

フィジーやボリビアで、なぜ生活様式が異なるのか、雨温図や地図から読み取ったことをもとに考えるよう支援を行う。

「おおむね満足できる状況」と評価

「努力を要する状況」と評価

1. 指導内容(指導事項)を確認する ……「学習指導要領解説」を読みましょう！

- 指導すべき内容を指導者が分かっていなければ、子どもに力をつけることはできません。
- 「学習指導要領解説」には、下のように指導内容が示されています。
- アは、知識及び技能です。イは、思考力、判断力、表現力等です。



連立二元一次方程式について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 二元一次方程式とその解の意味を理解すること。 (イ) 連立二元一次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解すること。 (ウ) 簡単な連立二元一次方程式を解くこと。	イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 一元一次方程式と関連付けて、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現すること。 (イ) 連立二元一次方程式を具体的な場面で活用すること。	※解説書には、学びに向かう力、人間性等については、直接的には示されていません。 該当学年の目標の欄に、記載されている事柄を参考に作成する。
--	---	--

2. 単元の目標を設定する ……単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

- 数学科の目標や当該学年の学年目標をもとに、必要な記述を抜き出して単元の目標を設定します。
- (1)が知識及び技能。(2)が思考力、判断力、表現力等。(3)学びに向かう力、人間性等です。



- (1) 連立二元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 文字を用いて数量の関係や法則などを考察し表現することができる。
- (3) 連立二元一次方程式について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。

3. 単元の評価規準を設定する ……評価のための判断のよりどころを決めよう！

数学では、下のような評価規準のフォーマットが示されています。



知識・技能 ・文末を「～している」「～できる」として、評価規準を作成する。	思考・判断・表現 ・文末を「～することができる」として、評価規準を作成する。	主体的に学習に取り組む態度 ・文末を「～している」「～しようとしている」として、評価規準を作成する。
--	---	---

指導内容を確認しながら、フォーマットに則って設定します。

知識・技能 ① 二元一次方程式とその解の意味を理解している。 ② 連立二元一次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解している。 ③ 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。 ④ 事象の中の数量やその関係に着目し、連立二元一次方程式をつくることことができる。	思考・判断・表現 ① 一元一次方程式と関連付けて、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ② 連立二元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。	主体的に学習に取り組む態度 ① 連立二元一次方程式の必要性と意味を考えようとしている。 ② 連立二元一次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③ 連立二元一次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
--	---	--

○上表には、9つの評価規準があります。次に、この9つを単元の指導計画に従って分配していきます。



4. 単元の評価計画を作成する

- 単元の評価計画を単元の展開計画と合わせて作成していきます。
- 全17時間の中で、何時間目にどの観点のどの評価規準について、どのような方法で評価するのか計画を立てます。



単元の指導計画(例) 中学校第2学年「連立二元一次方程式」 ◎…記録に残す評価

時	学習活動	本時の評価規準	評価方法
1	二つの二元一次方程式に、具体的な数値を代入し、二つの二元一次方程式を満たす数値について考える。	<知識・技能①> 連立二元一次方程式とその解の意味を理解している。 <主体的に学習に取り組む態度①> 連立二元一次方程式の必要性と意味を考えようとしている。	【行動観察】 連立二元一次方程式とその解の意味を理解し、文字に値を代入してそれぞれの方程式の解を求めているかを評価する。
2	一元一次方程式と関連付け、一方の文字を消去して連立二元一次方程式を解く方法について考える。	◎<思考・判断・表現①> 一元一次方程式と関連付けて、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。	【ノート分析】 一元一次方程式と関連付けて、一方の文字を消去して連立方程式を解く方法を考えているかを評価する。
8	連立方程式の解き方を振り返り、 $A=B=C$ の形の連立方程式の解き方を考え、その解き方を説明する。	<思考・判断・表現①> 一元一次方程式と関連付けて、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。	【行動観察】 加減法での解き方と関連付けて、一方の文字を消去し、連立二元一次方程式をつくり $A=B=C$ の形の連立方程式の解き方を説明できているかを評価する。
9	小単元の学習内容についての定着を確認する。 (小単元末テスト)	◎<知識・技能③> 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。	【小単元末テスト】 1節で学習した内容が身に付いているかを小単元末テストで評価する。
11	問題の中にある数量に着目して数量の関係を探え、連立方程式を利用して問題解決を図る手順を考える。	◎<思考・判断・表現②> 連立二元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。	【ノート分析】 どの数量を x 、 y とすれば連立二元一次方程式をつくることことができるかを考察し、問題解決の手順を考えているかを評価する。
17	単元全体の学習内容についての定着を確認する。 (単元末テスト)	◎<知識・技能①②③④> ◎<思考・判断・表現②> ※単元末テストのため複数評価	【単元末テスト】 単元全体の学習した内容が身に付いているかを単元末テストで評価する。

5. 単元の評価計画をもとに、本時の評価規準を具体的にします

第10時の評価規準【具体的に表記】

問題の中の数量やその関係に着目して連立方程式を立式し、求めた解が適切であるかどうかを説明することができる。

連立方程式を立式し、立式した方程式を解き、解を求めることができている。

「おおむね満足できる状況」と評価

等号を使って表すことの意味を理解できていない。連立方程式の立式ができていない。

「努力を要する状況」と評価

新大分スタンダードの視点「習熟の程度に応じた指導」

等号の左辺と右辺に等しい数量を表すことを図、表や言葉の式から導き、文字を使った式で表すことができるよう支援を行なう。

早わかり！ 単元計画の作成手順

～中学校 理科 第3学年「天体の動きと地球の自転・公転」を例にして～

1. 指導内容(指導事項)を確認する ……「学習指導要領解説」を読みましょう！

- 指導するべき内容を指導者が分かっていなければ、子どもに力をつけることはできません。
- 「学習指導要領解説」には、下のように指導内容が示されています。
- Aは、知識及び技能です。Iは、思考力、判断力、表現力等です。



身近な天体の観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

<p>ア 身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。</p> <p>(7) 天体の動きと地球の自転・公転</p> <p>日周運動と自転</p> <p>② 天体の日周運動の観察を行い、その観察記録を地球の自転と関連付けて理解すること。</p> <p>年周運動と公転</p> <p>① 星座の年周運動や太陽の南中高度の変化などの観察を行い、その観察記録を地球の公転や地軸の傾きと関連付けて理解すること。</p>	<p>イ 地球と宇宙について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の運動と見え方についての特徴や規則性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。</p>	<p>※解説書には、学びに向かう力、人間性等については、直接的には示されていません。第1分野、第2分野の目標の欄に、記載されている事柄を参考に作成する。</p>
--	--	--

2. 単元の目標を設定する ……単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

- 指導内容をしっかり理解した上で、単元の目標を設定します。
- (1)が知識及び技能、(2)が思考力、判断力、表現力等、(3)が学びに向かう力、人間性等です。



- 身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、日周運動と自転、年周運動と公転を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。
- 天体の動きと地球の自転・公転について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の動きと地球の自転・公転についての特徴や規則性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。
- 天体の動きと地球の自転・公転に関する事象・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うこと。

3. 単元の評価規準を設定する ……評価のための判断のよりどころを決めよう！

理科では、下のような評価規準のフォーマットが示されています。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・上記アの「～を理解するとともに」を「～を理解しているとともに」、「～を身に付けること」を「～を身に付けている」とする。	・上記イの「見いだして表現すること」を「見いだして表現している」とする。	・「(単元名)に関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている」とする。

指導内容を確認しながら、フォーマットに則って設定します。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、日周運動と自転、年周運動と公転についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	天体の動きと地球の自転・公転について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の動きと地球の自転・公転についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。	天体の動きと地球の自転・公転に関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

○上表の評価規準を単元の指導計画に従って分配していきます。



4. 単元の評価計画を作成する

- 単元の評価計画を単元の展開計画と合わせて作成していきます。
- 全9時間の中で、何時間目にどの観点のどの評価規準について、どのような方法で評価するのか計画を立てます。

理科



単元の指導計画(例) 中学校3学年の理科「天体の動きと地球の自転・公転」

時	学習活動	評価規準	評価の方法
1	○天球を使った天体の位置の表し方を知る。 ○地球上の一点で、方位と時刻がどうなっているかを知る。	<知識・技能> 地球上の特定の場所における時刻や方位を読み取っている。	【記述分析】 ワークシートの記述分析
2	○太陽の日周運動の観察を計画する。 (次の授業までに、観察を行う)	<知識・技能> 太陽の動きを観察し、その結果を適切に記録している。	【透明半球】 透明半球の記録
3	○透明半球に付けた点を結び、太陽が動いた軌跡を表す。 ○観察記録から、太陽の一日の動き方の特徴を見いだす。	<知識・技能> 透明半球に付けた点を結び、太陽の動いた軌跡を表している	【透明半球】 透明半球の記録
4	○コンピュータシミュレーションや写真を用いて、星の一日の動きを透明半球にまとめる。	<思考・判断・表現> 透明半球に、星の一日の動きを表し、その特徴を見いだして表現している。	【透明半球】 【記述分析】 透明半球とワークシートの記述分析
5	○地球の自転によって起こる相対的な動きによる見え方と地球の自転と関連付けて、モデルを用いて地球の自転の向きを推論する。	<主体的に学習に取り組む態度> 天体の日周運動を地球の自転と関連付けて、モデルを使って推論しようとしている。	【記述分析】 【行動観察】 ワークシートの記述分析と行動観察

5. 単元の評価計画をもとに、本時の評価規準を具体的に作る

【単元の評価計画にある第3時の評価規準】

天体の日周運動を地球の自転と関連付けて、モデルを使って推論しようとしている。

↓ 具体的に作る

【具体的にした第3時の評価規準】

・太陽や星の日周運動について、モデルを用いて試行錯誤しながら、地球の自転の向きを推論しようとしている。

A児
「はじめは何から考えればよいか分からなかったけれど、動く方向と逆に見えると友達と言ったので、なるほど思った」
「おおむね満足できる状況」と評価

B児
「友達の話聞いて分かった」
「努力を要する状況」と評価

- 評価計画に設定したものを、そのまま活用する場合がありますが、子どもの学習状況をつかむには、より具体化することが大切です。
- B児は、課題を解決しようとした取組や解決できたことなどの具体的な記述がありません。だから、適切な支援が必要なのです。



学習内容に興味・関心が低く、課題に対して粘り強く取り組もうとしない状態にあると考えられることから、個別に基礎的な内容から指導を行い、主体的に学習に取り組めるよう支援を行う。

早わかり！ 題材計画の作成手順

～ 小学校 音楽 第4学年
「A表現・歌唱」を例にして～

1. 指導内容を確認しよう！

本題材で扱う学習指導要領の内容：歌唱ア・イ・ウ(イ)、[共通事項](1)

ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。**思**
イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。**知**
ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。**技**

(イ)呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能 [共通事項](1)**思**

ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感

じ取ったこととの関わりについて考えること。
本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」、「強弱」、「呼びかけとこたえ」

■ 学習指導要領：歌唱のウでは、「技能」について(ア)～(ウ)の3つの指導事項が示されています。
■ 本題材の指導のねらいに応じて、一つ以上を扱うようにしましょう。*1

*1 小学校学習指導要領 解説音楽編p.117より

■ [共通事項]では、思考・判断のよりどころとなる要素を精選して設定します。

2. 題材の目標を設定しよう！ 題材名 旋律の特徴を生かして歌おう

- (1)「とんび」の曲想と音楽の構造との関わりなどについて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。**知****技**
- (2)「とんび」の旋律、強弱、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感

■ 題材の目標は、育成を目指す資質・能力の3つの柱に基づいて、それぞれ設定します。

■ 「題材名」は、題材に身に付けさせたい資質・能力を踏まえて、学習内容や学習活動が想起できる内容を設定しましょう。*単に、教材名を書くものではありません。

3. 題材の評価規準を設定しよう！

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに気付いている。</p> <p>技 思いや意図に合った音楽表現で「とんび」を歌うために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方を身に付けて歌っている。</p>	<p>思① 「とんび」の旋律、強弱、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感</p> <p>思② 聴き取ったことと感</p>	<p>態 「とんび」の旋律の特徴を生かして歌う学習に興味を持ち、音楽活動を楽しみながら進んで歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>■ 「題材名」がしっかりとできていないと、題材の目標や評価規準にも使えないね！</p>

■ 表現領域では、「知識」「技能」を分けて設定します。

■ 思考・判断のよりどころとなる要素は、題材の目標や評価規準などに共通して設定します。要素の数は、精選しましょう。

■ なお、鑑賞領域では「技能」は指導しないため設定しません。*「知識」のみ設定します。

■ 「思考・判断・表現」では、思考①「主として知覚感受について」、思考②「主として思いや意図について」に分けて設定すると、評価がしやすくなります。

4. 指導と評価の計画を作成しよう！！

題材全体の学習指導		評価の位置付け		
時	主な学習内容	評価の観点と主な評価の対象		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	<ul style="list-style-type: none"> 「とんび」の歌詞の表す様子や旋律の特徴を捉える。 「とんび」の曲の特徴を捉えて表現を工夫する。 		思①	
2	<ul style="list-style-type: none"> 「とんび」の「旋律、強弱、呼びかけとこたえ」をよりどころにし、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。 気付いたことを生かして音楽表現を工夫し、思いや意図をもつ。 	知	思②	
3	<ul style="list-style-type: none"> 前時のまでの学習を生かして、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方を身に付けて歌う。 	技		態

■ 記載している評価の計画は、全員の学習状況を記録に残す場面なんだね。
■ この例では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を3時に位置付け、1時から3時までの状況を総括的に評価するんだね。

5. 題材の指導計画をもとに、本時の評価規準を具体化しよう

- 第2時：思考・判断・表現②の評価規準
- 聴き取ったことと感
- 具体的にした第2時：思考・判断・表現②の評価規準
- 9小節～12小節の「ピンヨロ～」の歌唱表現について、「**旋律**」の特徴（「**呼びかけとこたえ**」）から「**強弱**」を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えをもっている。

「おおむね満足できる状況」と評価

- とんびが鳴きながら近付き、その後去って行く様子を表したいから、最初の2小節は *f* で、後半の2小節は *p* で歌おう。

「努力を要する状況」と評価

- 歌詞が表す情景を意識せずに、ただ単に大きな声で歌っている。
- 努力を要する児童には、とんびが飛んでいる様子について、「遠くかな？近くかな？」など想像力を膨らませてあげましょう。

6. 音楽活動を通して学習を深めよう！

- 音楽科は、音楽活動を通して学習を深めていく教科です。
 - 日々の授業は、「音楽発－音楽着」となるような構成で行ないましょう。
- 音楽発**
- 導入
 - 合唱を行ない、前時の学習を振り返るとともに、本時のめあてから学習の見通しをもつ。
 - 展開
 - 自分たちの歌声から、曲にふさわしい歌唱表現を追究する。*言語活動と合唱活動の往還
 - まとめ
 - 合唱を行ない、曲にふさわしい歌唱表現を実現できたか振り返る。
- 音楽着**

早わかり！題材計画の作成手順

～中学校 美術 第1学年
「花の命を感じて」を例にして～

1. 指導内容(指導事項)を確認する

- ①本題材が、どの内容のまとまりに該当するかを確認
- ②指導内容と評価の観点との関連を確認

知識 技能 思考・判断・表現

「A表現」(1)ア(ア)
対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

「A表現」(2)ア(ア)
材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。

「B鑑賞」(1)ア(ア)
造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。

【共通事項】
ア形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。イ造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

2. 題材の目標を設定する

- ①指導内容を基に題材の目標を作成(文末を「～させる」等指導者の立場で、題材に合った文言に変える等)



【知識及び技能】
・形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解させる。
・水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すよう指導する。

【思考力、判断力、表現力等】
・花を見つめ感じ取った花や葉の形や色彩の特徴や美しさ、生命感などを基に主題を生み出し、画面全体と花や葉との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練らせる。
・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げさせる。

【学びに向かう力、人間性等】
・美術の創造活動の喜びを味わい、花の美しさや生命感などを基に楽しく表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組ませる。

3. 題材の評価規準を設定する(文末を「～している」や「～しようとしている」に変える)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解している。 技 水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。	発 花を見つめ感じ取った花や葉の形や色彩の特徴や美しさ、生命感などを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	態① 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく花の美しさや生命感などを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 態② 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

生徒に資質・能力を確実に身に付させるために「指導内容」、「題材の目標」、「題材の評価規準」を一貫したものになります。

※ **発** 発想や構想に関する評価規準 **鑑** 鑑賞の能力に関する評価規準

4. 題材の指導と評価の計画を作成する

(例) 中学校美術第1学年「花の命を感じて」

時	ねらい・学習活動	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
1	1. 発想や構想(3時間) ●作者の心情や意図に応じた多様な表現について考える。 ・「花」がテーマの作品を鑑賞し、作者の意図や表し方などについて意見を述べ合いながら、主題と表現の工夫との関係について考え、や色彩などが感情にもたらす効果や全体のイメージで捉えることを理解する。 ●主題を生み出す。 ・花を選んだ理由を考え、花や葉の形や色彩の特徴などから感じたことなどを言葉で書き表しながら、主題を生み出す。 ●主題を基に構想を練る。 ・主題を基に、画面全体と花や葉との関係を考え、創造的な構成を工夫し構想を練る。	知				美術	【ワークシート】 【発言の内容】 【活動の様子】 【アイデアスケッチ】
2				発	態①		
3		知					
4	2. 制作(3時間) ●水彩絵の具の表し方を身に付ける。 ・形や色彩などが感情にもたらす効果などを考えながら、自己の構想に基づき、筆致や濃度などを変えるなど、様々な表し方を試す。 ●発想や構想を基に自分の意図に合う表現方法を工夫して表す。 ・自分の意図に応じて、水彩絵の具や筆などの使い方を工夫して表す。また、制作の途中に鑑賞を行い、他者の作品を見たり自分の意図を説明したりすることにより、より表したいものを明確にしていくなどしながら作品を完成させる。		技			態①	【試作の作品】 【活動の様子】 【制作途中の作品】 【完成作品】
5				発			
6			技				
7	3. 鑑賞(1時間) ●生徒作品や美術作品などから、他者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。 ・お互いの完成作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明し合う。 ・第一次とは異なる「花」をテーマにした作家の作品を鑑賞し、作品の主題と表現の関係や意図と工夫などについて自分の活動した体験から、新たな見方や感じ方を広げる。				鑑	態②	【ワークシート】 【発言の内容】 【活動の様子】
					鑑	態②	

※ 児童の学習状況を把握して指導に生かす。 全員の学習状況を把握し、記録に残す。

5. 題材の指導計画(指導と評価の計画)をもとに、本時の評価規準を具体的に定める

【知識】形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に美しさや生命感などを全体のイメージでとらえることを理解している。

↓
具体的に定める

題材の評価規準をそのまま活用する場合がありますが、子どもの学習状況をつかむには、より具体化することが大切です。

【知識】線の感じや色の感じ、光の当たり具合の違いなどによって心象が異なることや、様々な花が持つ造形的な特徴を基に、美しさや生命感など、作品の全体のイメージで捉えることを理解している。

【B生徒】
選んだ花をいろいろな角度から観察したり、異なる場所に置いてみたりして画面全体の中の大きさや光の当たり具合による雰囲気の違いについて確かめながらスケッチしている。

【C生徒】
細部の形に着目してスケッチしている。消しては描きを繰り返している。

「努力を要する状況」と評価

「おおむね満足できる状況」と評価

○C生徒は、形や光の性質について知っていても発想したり構想を練ったりする際に活用することに困りを感じている可能性があります。ですから、適切な指導の手立てが必要なのです。

様々な角度や距離から花を観察させたり、花を異なる場所に置かせたりして花が見える表情の違いを経験させる。



題材指導計画の作成手順 ～技術・家庭科家庭分野 B衣食住の生活を例にして～



1. 指導内容(指導事項)を確認する ……「学習指導要領解説」を読みましょう！

- 家庭科では、学習指導要領の各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織して題材を構成し、教科目標の実現を目指しています。
- 「学習指導要領解説」のP153～155に、指導内容が示されています。
- 「ア」は知識及び技能、「イ」は思考力・判断力・表現力等です。



【例】B衣食住の生活
次の(1)から(7)までの項目について、課題をもって、健康・快適・安全で豊かな食生活、衣生活、住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(5)生活を豊かにするための布を用いた製作

<p>ア 製作する物に適した材料や縫い方について理解し、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできること。</p>	<p>イ 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。</p>	<p>「学びに向かう力、人間性等」については、内容には示されていないので、家庭科の目標(3)に示されていることを参考にします。</p>
---	---	---

2. 題材の目標を設定する ……題材でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

○学習指導要領に示された教科の目標並びに題材で指導する項目及び指導事項を踏まえて設定します。



【例】題材名 健康・快適で持続可能な衣生活(第2学年)

- (1)衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用、個性を生かす着用、衣服の適切な選択、衣服の計画的な活用の必要性、日常着の手入れ及び製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取扱いについて理解するとともに、それに係る技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】
- (2)衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- (3)よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、生活を工夫し創造し、実践しようとする態度を育てる。【学びに向かう力、人間性等】

3. 題材の評価規準を設定する ……評価のための判断のよりどころを決めよう！

○「内容のまとめりごとの評価規準(例)」から題材において指導する項目及び指導事項に關係する部分を抜き出し、評価の観点ごとに整理・統合、具体化するなどして作成します。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び</p> <p>②衣服の適切な選択について理解している。</p> <p>・衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。</p> <p>・製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。</p>	<p>③衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>④よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。</p>

4. 指導と評価の計画を作成する

学習活動に応じて題材の評価規準を具体化したものを指導と評価の計画に記載します。

題材の指導と評価の計画(例)(全14時間) 題材名 健康・快適で持続可能な衣生活(第2学年)

小 題 材	時 間	学習活動	評価規準 ◆評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
衣服の一生	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎日着る制服は、どのような手入れをしているのか、また、どんな手入れの方法があるのかを考える。 ● 着なくなった制服の再利用などについて考える。 		<p>③ 健康・快適で持続可能な衣生活を送るために、衣服の選択、日常着の手入れ、衣服等の再利用などについて問題を見いだして課題を設定している。</p> <p>◆学習カード</p>	<p>↑</p> <p>④ 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>◆ポートフォリオ</p> <p>◆学習カード</p> <p>◆行動観察</p> <p>↓</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ● 衣服と社会生活との関わりについて考える。 ● 衣服の選択について課題を設定する。 ● 様々な行事や活動の際、どのように衣服を選ぶのかを考え、話し合う。 ● 遊園地に行く時にふさわしい服装について考え、発表する。 ● 組成表示や取扱い絵表示等、衣服の様々な表示について調べる。 ● 目的、デザイン、サイズ等を考慮しながら、遊園地に行く時にふさわしい衣服を選択し、ペアで発表し、選択を見直す。 	<p>① 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用について理解している。</p> <p>◆学習カード</p> <p>② 衣服の適切な選択について理解している。</p> <p>◆学習カード</p>	<p>③ 衣服の選択について問題を見いだして課題を設定している。</p> <p>◆学習カード</p> <p>③ 衣服の選択について考え、工夫している。</p> <p>◆学習カード</p> <p>③ 衣服の選択について、実践を評価したり、改善したりしている。</p> <p>◆学習カード</p>	
健康・快適で持続可能な衣生活を送るために	14	<ul style="list-style-type: none"> ● 友達の作品を見て、よいところを相互評価し、参考になるところをワークシートにまとめる。 		<p>③ 健康・快適で持続可能な衣生活を送るための課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。</p> <p>◆学習カード</p>	<p>④ よりよい衣生活の実現に向けて、衣服等の再利用の製作計画や製作について工夫し創造し、実践しようとしている。</p> <p>◆ポートフォリオ</p>

①～④の番号は、題材の評価規準例の番号に対応しています。

5. 題材の指導と評価の計画をもとに、本時の評価規準を設定する

○本時の評価規準は、題材の指導と評価の計画に設定したものを、そのまま使用します。
○努力を要する生徒への手立てを想定しておくことが大切です。



評価の観点	おおむね満足できる(B)	努力を要する生徒への手立て
思考・判断・表現	健康・快適で持続可能な衣生活を送るための課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	他の生徒の記述を参考にしよう促したり、これまでの学習カードの記述を再度一緒に確認するなど、個に応じた指導をする。

1. 指導内容(指導事項)を確認する ……「学習指導要領解説」を読みましょう！

- 指導するべき内容を指導者が分かっていなければ、子どもに力をつけることはできません。
- 「学習指導要領解説」には、下のように指導内容が示されています。
- Aは、知識及び技能です。イは、思考力、判断力、表現力等です。



(例)生活や社会を支える材料と加工の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解すること。

イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。

※学びに向かう力、人間性等については、技術分野の目標(3)に記載されている事柄を参考にします。

2. 題材の目標を設定する ……題材でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

- 指導内容をしっかり理解した上で、題材の目標を設定します。
- 学習指導要領解説の各内容の最初に示されたねらいを参考にし、下のような4つの構成で作成します。



(学習活動)	材料と加工の技術の見方・考え方を働かせ、より安全な生活を目指した耐震補強器具を開発する実践的・体験的な活動を通して、
(知識及び技能)	生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、材料と加工の技術と安全な生活や社会との関わりについて理解を深めるとともに、
(思考力、判断力、表現力等)	生活の中から材料と加工の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力、
(学びに向かう力、人間性等)	安全な生活や社会の実現に向けて、適切かつ誠実に材料と加工の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。

3. 題材の評価規準を設定する ……評価のための判断のよりどころを決めよう！

- 「技術分野の評価の観点の趣旨」に、「内容のまとまりごとの評価規準」や「題材の目標及び題材で指導する内容」を加えて設定します。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み及び、材料と加工の技術と安全な生活や社会との関わりについて理解しているとともに、製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等ができる技能を身に付けている。	生活の中から材料と加工の技術と安全に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身に付けているとともに、安全な生活や社会の実現を目指して材料と加工の技術の評価し、適切に選択・管理・運用する力を身に付けている。	安全な生活や社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている。

4. 題材の指導と評価の計画を作成する

内容のまとまりごとの評価規準例		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解している。	① 材料と加工の技術に込められた問題解決の工夫について考えている。	③ 主体的に材料と加工の技術について考え、理解しようとしている。
製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等ができる技能を身に付けている。	問題を見いだして課題を設定し、材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしようとしている。
生活や社会、環境との関わりを踏まえて、材料と加工の技術の概念を理解している。	② 材料と加工の技術の評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えている。	④ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている。

内容のまとまりごとの評価規準例を「学習指導要領解説」等の内容を参考に具体化します。

内容のまとまりごとの評価規準例を具体化したものを学習活動に応じて具体化、整理・統合します。

▼ この内容を題材の指導と評価の計画に記載します。

題材の指導と評価の計画(例) (全20時間) A 材料と加工の技術によって、安全な生活の実現を目指す

時間 指導 事項	学習活動	評価規準 ◆評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 2 A(1) イ	<ul style="list-style-type: none"> ● 3年間の学習の見直しをもつ。 ● 社会や生活で使用されている耐震補強器具について調べる。 	①～④の番号は、内容のまとまりごとの評価規準例の番号に対応しています。	① 耐震補強器具に込められた工夫を読み取り、材料と加工の技術の見方・考え方に気付くことができる。 ◆ワークシート	③ 進んで材料と加工の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付ける。 ◆ワークシート
20 A(3) イ	<ul style="list-style-type: none"> ● より安全な生活や社会を実現する材料と加工の技術の在り方について話し合い、自分の考えを発表する。 		② 安全な生活や社会の実現を目指して、材料と加工の技術の評価し、適切な選択、管理・運用の仕方について考えをまとめることができる。 ◆ワークシート	④ 安全な生活や社会の実現に向けて、材料と加工の技術を工夫し創造していこうとしている。 ◆ワークシート(振り返り)

5. 題材の指導と評価の計画をもとに、本時の評価規準を設定する

- 本時の評価規準は、題材の指導と評価の計画に設定したものを、そのまま使用します。
- 努力を要する生徒への手立てを想定しておくことが大切です。



評価の観点	おおむね満足できる(B)	努力を要する生徒への手立て
思考・判断・表現	安全な生活や社会の実現を目指して、材料と加工の技術の評価し、適切な選択、管理・運用の仕方について考えをまとめることができる。	材料と加工の技術の評価し、適切な選択、管理・運用の仕方について具体例を提示し、助言・指導をする。

早わかり！単元計画の作成手順

～中学校保健体育 第1学年及び第2学年
E球技 ゴール型「サッカー」を例にして～

1. 指導内容(指導事項)を確認する・・・「学習指導要領解説」を読みましょう！

- 指導するべき内容が指導者が分かっていなければ、子どもに力をつけることはできません。
- 「学習指導要領解説」には、下のように指導内容が示されています。
- (1)は、知識及び技能です。(2)は、思考力、判断力、表現力等です。(3)は、学びに向かう力、人間性等です。



ゲームの展開について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技能の名称や行い方、その運動に関して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。 ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。	(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えを他者に伝えること。	(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加すること、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。

2. 単元の目標を設定する・・・単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

- 上記の指導内容をもとに、必要な記述を抜き出して単元の目標を設定します。
- (1)が知識及び技能。(2)が思考力、判断力、表現力等。(3)が学びに向かう力、人間性等です。
- 単元の目標の語尾は、「～することができるようにする」と表記します。



- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技能の名称や行い方、その運動に関して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開**することができるようにする**。
ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を**することができるようにする**。
(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる**ようにする**。
(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加すること、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができる**ようにする**。

3. 単元の評価規準を設定する・・・評価のための判断のよりどころを決めよう！

「単元の評価規準」作成における【観点ごとのポイント】を整理します。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・知識については、文末を「～について、言ったり書いたりしている」あるいは、「～について、学習した具体例を挙げている」として、評価規準を作成する。 ・技能については、文末を「～(行い方・対処)について、(～)ができる」として、評価規準を作成する。	・文末を「～している」として、評価規準を作成する。	・文末を「～しようとしている」として、評価規準を作成する。

指導内容の例示を確認しながら、フォーマットに則って設定します。

知識	技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各目種において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。	①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方に出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。

○上表には、10の評価規準があります。次に、この10を単元の指導計画に従って分配していきます。



4. 指導と評価の計画を作成する

保体

- 単元の評価計画を単元の展開計画と合わせて作成していきます。
- 全10時間の中で、何時間目にとどの観点のどの評価規準について、どのような方法で評価するのか計画を立てます。
- 1時間に行う評価の数は、1～2つに設定します。2つ評価する場合は、別の評価方法が有効です。



単元の指導計画(例) E 球技 ゴール型「サッカー」 中学校 第1学年

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
学習の流れ	0	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動									
	10	オリエンテーション ボール操作 シュート パス トラップ	ボール操作の反復練習							最終リーグ戦②	簡易ゲームの修正 最終リーグ戦①
	20		空間に走り込むなどの動き ボールとゴール	課題の確認と解決の練習 ボール操作 空間に走り込む							
	30		ボールゲーム慣れ シュートゲーム ゲーム記録の活用	グリッド突破ゲーム 仲間の即時の助言	簡易ゲーム 人数・コート・ルール等の簡易化						
	40			整理運動・学習の振り返り・次時の確認							
50											
評価機会	知識	①カ	(②)カ	(②)		②カ					
	技能			①観・I		②観・I	③観				
	思・判・表						②カ・I	①カ・観		③カ・観	
	態度		②観・カ		①観・カ						

【※ カ：学習カード 観：観察 I：ICT】

5. 単元の指導計画(指導と評価の計画)をもとに、本時の評価規準を具体的に作る

【単元の評価計画にある第7時目の評価規準】 = 【具体的にした第7時の評価規準】

提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。

保健体育は、具体的にしたものを単元の評価規準として設定するので、基本的に再設定は行いません。

A児 「提供された練習方法から、場面に 対応した適切な内容で、自己や チームの課題に応じた練習方法 を選ぶことができています。」 「十分満足できる状況」と評価	B児 「提供された練習方法から、自己 やチームの課題に応じた練習方法 を選ぶことができています。」 「おおむね満足できる状況」と評価 評価規準	C児 「自己や自己のチームの課題を解 決する練習方法を選ぶことが出来 ていない。」 「努力を要する状況」と評価
--	--	---

- 評価規準を設定する場合、指導内容の例示を参考にします。子どもの実態を把握し、どのレベルを評価規準(B)とするかが大切です。
- C児は、自己やチームの課題が理解できていません。この時間では、ゲームの攻防をする上で、基本的な技能や仲間と連携した動きの課題の発見が必要となります。



課題に応じた練習方法を選択できるように、掲示物やICTを活用して視覚からの情報で示したり、声かけ・練習の支援を行う。

早わかり！単元計画の作成手順 ～中学校 外国語科 第3学年 「話すこと[やり取り]」を例にして～



1. 指導する領域別目標を確認する ……「学習指導要領」を読みましょう！

- 外国語科では「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の5つが、領域別目標として設定されています。
- 指導すべき内容の領域別目標を指導者が分かっていなければ、子どもに力をつけることはできません。
- 「学習指導要領」には、外国語科において、下のように領域別目標が示されています。



話すこと [やり取り]	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。
----------------	--

2. 単元の目標を設定する ……単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

- 領域別目標をしっかりと理解した上で、単元の目標を設定します。
- 各学校が設定する学習到達目標(CAN-DOリスト)をもとに、英語を用いて何ができるようにするのかをあらかじめ明らかにします。

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について書かれた英文を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことを、英文を引用したり内容に言及したりしながら伝え合うことができるようにする。

3. 単元の評価規準を設定する ……評価のための判断のよりどころを決めよう！

外国語科では、下のような評価規準のフォーマットが示されています。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 【言語材料】について理解している。 <技能> 【事柄・話題】について聞いたり読んだりしたことについて、【内容】を、【言語材料】などを用いて述べ合う技能を身に付けている。	【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合っている。	【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。

指導内容を確認しながら、フォーマットに則って設定します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 受け身や現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。 <技能> 野菜の歴史について聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたことなどを、受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について聞いたり読んだりして、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして 伝え合っている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について聞いたり読んだりして、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして 伝え合おうとしている。

外国語科では、思考・判断・表現と主体的に学習に取り組む態度には深い関わりがあることから、太字下線部のように文末を対の形で示し、両者を一体的に評価することができることとしています。

4. 指導と評価の計画を作成する

- 単元の評価規準では「知識・技能」を分けていますが、理解した「知識」を使うことができる「技能」として、1時間の授業において両者を一体的に評価することができます。
- 単元末に進むにつれて、評価規準を、単元で目指す生徒の姿へと近づけていきます。

単元の指導計画（例）

時	学習活動	評価規準	評価の方法
1	○ 単元の目標を理解する。 ○ 教科書の対話文で使われている未知の語の意味や受け身の構造と意味を理解し、対話文の内容に関して引用しながら考えや感想を伝え合う。	<知識・技能> 受け身の用法と引用するための表現について理解している。	【記述分析】
2	○ 受け身を使って作成された教科書本文とは別の対話文を読み、引用しながら、考えや感想を受け身の英文を使って伝え合う。	<知識・技能> 対話文の内容を引用しながら、考えや感想などを伝え合っている。	【行動観察】 【記述分析】
3	○ 教科書の対話文で使われている未知の語の意味や現在完了形（肯定文）の構造と意味を理解し、対話文の内容に関して引用しながら考えなどをペアで伝え合う。	<知識・技能> 現在完了形（肯定文）の用法と引用するための表現について理解している。	【記述分析】
(中略)			
7	○ ピクチャー・カードを使い、受け身や現在完了形などを正しく用いながら、教師やALTに教科書の全ての本文内容について説明する。	★<知識> 受け身や現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。 ★<技能> 野菜の歴史について聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたことなどを、受け身や現在完了形などを用いて述べ合う技能を身に付けている。	【行動観察】
8	○ 初見の文章を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合う。 ○ ペアで話した内容をワークシートに書く。	★<知識・技能> ※第7時と同じ ★<思考・判断・表現> 《友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について聞いたり読んだりして、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして》伝え合っている。 ★<主体的に学習に取り組む態度> 《同上》伝え合おうとしている。	【行動観察】 【記述分析】
後日	パフォーマンステスト	★<知識・技能> ★<思考・判断・表現> ★<主体的に学習に取り組む態度>	【行動観察】

5. 単元の指導計画(指導と評価の計画)をもとに、本時の評価規準を具体的に作る

【具体的にした第7時の評価規準 <知識・技能>】

野菜の歴史について書かれた教科書本文の内容について、受け身や現在完了形などを正しく用いるとともに、引用するための表現（According to～, A says～など）を使って教師やALTに説明することができる。

【B児】
Daisuke haven't finished homework.
But he written the body.
According to him, cucumbers are from India.
They came to Japan in six century.
They are grown all over the world now.

「おおむね満足できる状況」と評価

【C児】
Daisuke wasn't finished homework.
But he written
Cucumbers came to Japan in six century.
Cucumbers are grown in the world.

「努力を要する状況」と評価

- 評価計画に設定したものを、そのまま活用する場合もありますが、子どもの学習状況をつかむには、より具体化することが大切です。
- C児は、現在完了について理解が不十分で、引用するための表現を用いて説明することができていません。だから、適切な支援が必要なのです。

現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現方法についてももう一度確認し、理解することができるよう支援を行う。

早わかり！ 道徳科の授業作成手順

～内容項目「遵法精神、公德心」
「二通の手紙」を例として～

道徳科

1. 指導内容(内容項目)を確認し、ねらいを検討する……学習指導要領解説を読む



該当の学年だけでなく、小学校低学年から中学校までを見通して、内容項目についての理解を深め、ねらいとする道徳的価値について、授業者の明確な考えをもちましょう。

解説では、(1) 内容項目の概要と(2) 指導の要点が示されています。例えば、「遵法精神、公德心」においては、「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること」とあります。指導に当たっては、法やきまりは自分自身や他者の権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについての自覚を促すことが求められます。その上で、「ルールだから守る」(他律的な捉え方)から「尊重したいから守る」という自律的な捉え方ができるようにしていくことが大切です。



2. 指導内容(内容項目)やねらいに関わる児童生徒の実態を明らかにする



児童生徒の実態があるからこそ、本時の道徳科の授業では、どの**道徳性の諸様相**に焦点を当てて授業をするのが決まるのです。

「法やきまりを守る」ことについて、今の生徒の現状を把握します。これまでの教育活動や指導場面を振り返り、その結果として、生徒のよさや課題を確認します。

例えば、「法やきまりは、自分たちを拘束するものと反発し、肯定的に受け止められていない」という実態があるならば、ねらいは、「法やきまりを守ることが、自分たちの社会を安定的なものにしていることを考えさせ、積極的に法やきまりに関わろうとする**態度を育てる**」等が考えられます。

あるいは「周囲に目が向けられず、自己中心的な言動により、きまりが守られていない」という実態があるならば、ねらいは、「法やきまりの意義を理解し、自尊心や思いやりの心との関わりがあることに気付かせ、法やきまりを守ろうとする**判断力を育てる**」等が考えられます。

このように生徒の実態を把握することで、本時で学ばせたいことが明確になってきます。

学校教育における道徳性の捉え方(道徳性の諸様相)

道徳的判断力	それぞれの場面で善悪を判断する能力
道徳的心情	道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪をにくむ感情
道徳的实践意欲	道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志の働き
道徳的態度	道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

3. 教材を吟味する……児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項を検討



読み物教材では、道徳的価値に関わるどんな問題が起きているのか、その出来事に道徳的価値がどのように関わっているのかをとらえ、ねらいに関わって、児童生徒に一番考えさせたい場面を想定し、発問等を考えます。

ねらいとする道徳的価値(遵法精神、公德心)についての、授業者の明確な意図、生徒の実態をもとに、教材「二通の手紙」をどのように活用し、どのような学習を行うのかを明らかにします。

「態度を育てる」ことをねらいとした場合

元さんが、二通の手紙を見比べながら、考えている場面。

「判断力を育てる」ことをねらいとした場合

元さんが、迷った末、姉弟を入園させる場面。

中心発問 二通の手紙を見比べながら、元さんは何を考えていたか。

中心発問 元さんのこの場面での「思いやり」に問題はないのか。

※次ページでは、「態度を育てる」ことをねらいとした学習展開の例を示しています。

4. 学習指導過程を作成する(新大分スタンダードとの関係も含む)

1～3を通して、教師の指導の意図が明確になったところで、授業の指導の流れ(学習指導過程)を考えていきます。

段階		学習活動や主な発問
導入	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の興味関心を高め、ねらいとする道徳的価値に向けて動機付けを図る段階 	○実態や問題を知る めあて 規則やきまりの大切さについて考えよう
展開	<ul style="list-style-type: none"> ねらいを達成するための中心となる段階 中心的な教材によって、ねらいとする道徳的価値についてじっくり考える段階 ねらいに対する思いや願い、課題を培うために、現在の自分を見つめる(設定しない場合も考えられる) 	○教材を活用して道徳的価値を理解し、よりよい生き方を考える 中心発問につなげるための基本発問 元さんは、なぜ規則をやぶってまで入園させたのだろう。 中心発問 二通の手紙を見比べながら、元さんは何を考えていたのでしょうか。 ※生徒の考えを深めたり広げたりする 補助発問 を準備しておく まとめ ・規則は自分一人のものではないということについて ・先のことを想像することの大切さについて
終末	<ul style="list-style-type: none"> ねらいに対する自分なりの思いをあたためたり、更に深く心にとどめたりして、今後の発展につなぐ段階 	○よりよい生き方の実現への思いや願いを深める 振り返り 規則やきまりには、どんな意味が込められているのだろう

※学習指導過程にあるめあてや中心発問(課題)、まとめ、振り返り等は、一例です。



ねらい、実態、教材、学習指導過程に応じて、適切な指導方法を選択し、工夫しましょう。

発問の工夫(例)

- 多面的・多角的な考えを引き出すために、次のような発問が考えられます。
- ◆元さんが言った「この年になって初めて考えさせること」とは、どんなことなのでしょう。
- ◆佐々木さんは、元さんから何を学んだのだろう。
- ◆動物園の規則を守ると「思いやり」を実行できないが、動物園の規則に問題はないのか。
- ◆会社を辞めるのは残念なことなのに、元さんが晴れ晴れとした顔をしていたのはなぜだろう。 など



表現活動の工夫(例)

元さんの言葉「万が一事故にでもなっていたらと思うと・・・」の部分に、役割演技を取り入れ、元さんになりきって表現させる。「規則に込められたあたたかな思いを忘れるなんて、動物園職員として失格です。」や「規則の意味を改めて深く考えることができました」などの発言が期待できる。

5. 本時において、期待する児童生徒の学習状況を明確にする(評価の着眼点)

道徳科の評価は、道徳性が育ったかどうかを評価するものではありません。道徳性につながっていくような学習状況がみられたかどうかを把握します。学習状況とは、道徳科の目標に示されている学習活動における生徒の発言や記述等のことです。本時における期待する学習状況を明確にし、評価の着眼点を設定しましょう。

【ねらいの構造】※特に決められた形式はありませんが、次の3つの要素で書くことが考えられます。

「学習の中心的内容」・元さんが姉弟を入園させたことについて
 「学習活動」……きまりの大切さを生命尊重や思いやり等の視点から考えることを通して
 「道徳性諸様相」……きまりを守り、義務を果たそうとする態度を育てる。

ねらいの3つの要素のうち「学習活動」の部分の評価の着眼点にします。

【評価の着眼点】

きまりの大切さを、生命尊重や思いやりと関連付けながら考え、発言したり書いたりしている。

【評価の方法】(いつ、どのようにして)

・グループ学習の様子や全体での発言から見取っていく。(机間指導と意図的指名) ・道徳ノートの記述から見取っていく。



早わかり！ 単元計画の作成手順

～中学校 総合的な学習の時間 第2学年
「人はなぜ働くの？ 仕事を通して自己の生き方を考える」を例にして～

【A中学校における総合的な学習の時間における内容のまとめ（例）】

内容のまとめ			
探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
働くことの意義や働く人の夢や願い	①地域には、地域の活性化や問題の解決を目指した取り組みやそれを支える人々、組織があることを理解する。 ②収集した情報を視点で分類し、分かりやすい方法で表すことができる。 ③働くことの意味を考える学習が、今後の自分自身の生き方に深く関わっていることを理解することができる。	①自分たちを取り巻く社会に広く目を向けて、活動の意図や目的を明確にしたりして課題を見出し解決の方法を見通しをもつことができる。 ②他者の意見や課題解決の方向性から、必要な情報を取捨選択することができる。 ③事例や考えを比較したり因果関係を推論したりして考え、視点を定めて多様な情報を分析することができる。 ④調べたり考えたりしたことをまとめ、相手や目的、意図に応じて論理的に表現することができる。	①自分の意図で目標や見通しをもって課題の解決に向けた探究活動に取り組むこととする。 ②自分の生活及び地域との関わりを見直し、自分のよさを理解しようとするともに、他者の考えを受け入れ尊重しようとする。

1. 単元の目標を作成する

各学校は、学習指導要領が定める目標を踏まえ、総合的な学習の時間の目標及び内容を定めることとされ、各学校の全体計画に明記されています。この「内容のまとめ」を踏まえて、教師が意図やねらいをもって作成するのが単元計画です。



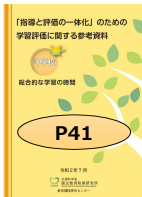
(1) 「内容のまとめ」をもとに、単元全体を見通して、単元の目標を作成する。

①地域の仕事や、その仕事に取り組む人々に関する探究的な学習を通して、②働くことの意味と自分自身の生き方との関わりが気付き、③働くことの意味を自分との関わりで考えようとするとともに、④今後の学習や生活の在り方に積極的に生かすことができるようにする。



この例では、4つの要素を構造的に配列して作成しています。

- ①探究課題を踏まえた単元において 中心となる学習対象や学習活動
- ②単元において重視する「知識及び技能」
- ③単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」
- ④単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」



2. 単元の評価規準を作成する

(2) 「内容のまとめ」ごとの評価規準をもとに、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。



単元の評価規準を作成する際には、単元で行う学習活動やどのような資質・能力を重視するかによって具体的に記述することが求められます。その際、観点ごとのポイントを参考にして作成することが考えられます。観点ごとのポイントは、参考資料のP43～P45に掲載されていますので参照してください。

【単元の評価規準】(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①働くことの意味について、収入を得るため以外にも、自分自身や他人のためになっていること、地域社会のためになっていること、それらは自己の成長とともに見だすことができることに気付いている。	①働くことの意味について、自分たちの考えと実際に働いている人々との考えの隔たりから、自分自身で課題を設定し、見直しを行っている。 ②他者に自分の考えが伝わるように、目的に合わせて情報を分類したり、効果を意識して表現方法を組み合わせたりしている。	①課題解決に向けて見直しをもち、粘り強く取り組み、自身の活動を振り返りながら次時の活動に生かそうとしている。 ②仕事と自分との関わりに関心をもち、今後の学習や生活の在り方を積極的に考えようとしている。
②収集した情報を手際よく分類し、分かりやすい方法で表している。	③相手や目的に応じて自分自身の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	
③働くことの意味を考える学習が、将来の職業選択のみならず、今後の自分自身の生き方に深く関わっていることを理解している。		



本単元の評価規準は、A中学校の全体計画に示した「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」のうち、「思考力、判断力、表現力」の①③④、「学びに向かう力、人間性等」の①③を踏まえて作成しています。

3. 指導と評価の計画を作成する

「単元の評価規準」の指導計画への位置付けについては、総括的な評価を行うためにも、生徒の姿となって表れやすい場面、全ての生徒を見取りやすい場面を選択することが大切です。



総合

【指導と評価の計画（全45時間）】の例

小単元名	ねらい・学習活動	知	思	態	備考 (評価方法)
1 働くことの意味を考えよう。(15)	・自分で考えた働くことの意味と、実際に働いている人が考える働くことの意味には違いがあることに気付く。 ・地域にある職業を知り、職場体験学習をする事業所を決定し、事業種ごとに働くことの意味を探る計画を立てる。		①		・ワークシート
	・事業所にインタビュー(兼事前訪問)をしたり、保護者や地域へのアンケートを実施したりして、情報を集める。 ・調査活動によって得た情報をもとに、働くことの意味について考える。	①			・ウェビングマップ ・ワークシート
	・インタビューやアンケートで得られた情報を伝えたいことに即して分類したり、表現したりする。 ・整理した情報をまとめ、学級全体で共有する。	②	②		・レポート ・振り返りシート
	・全体共有で感じた疑問点をグループで共有し、今後の活動の見直しをもつ。			①	・振り返りシート
2 実際に働き、自己の生き方を考えよう。(30)	・疑問点をまとめ、課題として設定するとともに、職場体験学習の計画を立てる。 ・実際に職場体験学習を行い、事業所の方に新たな疑問についてインタビューをしたり、体験から得た感覚的な情報を自己の変化に着目して職場体験ハンドブックにまとめたりする。		③		・職場体験ハンドブック ・発言 ・分析シート
	・インタビュー活動で得た新たな情報や職場体験を通して記録したことを整理・分析し、仕事をする理由と自己の成長の関係を知る。 ・将来の職業をイメージし、今後どのような社会人になりたいか、これからどのように生きたいかの提言をレポートにまとめ、発表する。また、発表内容を事業所に感謝の手紙とともに送り、事業所の方からコメントをもらう。	③	②		・提言レポート ・礼状

4. 単元の指導計画（指導と評価の計画）をもとに、本時の評価規準を具体的に作る



「人はなぜ働くの？」という課題を設定した生徒は、保護者や職場体験訪問事業所に対して「働くことの意味」についてのアンケートを実施しました。活動から得られた情報を整理・分析する場面で、ウェビングマップとワークシートに記述したものを「知識・技能①」の評価資料としています。

評価規準「知識・技能①」

働くことの意味について、収入を得るため以外にも、自分自身や他人のためになっていること、地域社会のためになっていること、それらは自己の成長とともに見だすことができることに気付いている。

【図1】単元導入時の生徒A



働く理由は、お金をもらうためだと思います。お金がないと、生活していけません。家族を養うのもお金が必要です。あと、学校の先生は生徒のために、病院の医者は患者のために働いているとも言えるので、他人のためでもあると思います。

【図2】整理・分析時の生徒A



インタビューやアンケートから、働く理由は「お金のため」「他人のため」「自分のため」「地域のため」の4つであることが分かりました。②一番意外だったのが、「自分のため」という意見です。今度職場体験で行く事業所の方も、「自分の技術をさらに高めたい」と話していました。また、「他人のため」とは学校の先生とかしか考えていませんでしたが、ミカン農家の方が「このミカンを食べてくれる人のため」と言っていて、直接会わない人も含まれるんだと思いました。

【図2a】を見てください。着目した。アンケートから得られた「達成感」という意見や、「社会とつながりたい」という意見が「自分のため」に繋がっています。このことから、生徒Aは「達成感」や「社会とつながりたい」という意見のどれもが「自分のため」とあるという考えに至ったと解釈することができます。

下線②には「意外だった」と書かれています。この記述から、働くことの意味について新たな視点に気付くとともに、働くことの意味が拡張されたことを生徒A自身が自覚しているものと解釈することができます。

期待する生徒の姿に迫るための学習活動を設定するとともに、生徒の発言や振り返りなどから、学習状況を把握することが大切です。



早わかり！単元計画の作成手順

～学級活動 題材 第2学年「体験活動を学校生活につなごう」を例にして～

1. 指導内容(指導事項)を確認する ……「学習指導要領解説」を読みましょう！

◇内容・題材を定める

学級活動(3) 「一人一人のキャリア形成と自己実現」
題材 第2学年「体験活動を学校生活につなごう」

学級活動の内容は3つありますね。
(1)学級や学校における生活づくりへの参画
(2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
(3)一人一人のキャリア形成と自己実現 です。

学級活動(1)は「議題」に基づいて学級全体の「合意形成」を、
学級活動(2)(3)は「題材」に基づいて一人一人の「意思決定」を
目指しましょう。



2. 単元の目標を設定する ……単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

◇学級活動(3)で育成を目指す資質・能力を確認する。

- 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義や、現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために、必要な知識及び技能が身に付いている。
- 現在の自己の学習と将来の生き方や進路についての課題を見だし、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて、自己の将来について、適切な情報を得ながら考え、自己の将来像を描くことができる。
- 将来の生き方を描き、現在の生活や学習のあり方を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとしている。

3. 単元の評価規準を設定する ……評価のための判断のよりどころを決めよう！

◇内容のまとめりごとの評価規準を各学校で定めておく

学級活動(3) 「一人一人のキャリア形成と自己実現」の評価の観点と規準の例

評価の観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義を理解している。 現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考え、自分らしい生き方の実現を図るために、必要な知識及び技能を身に付けている。	自分らしい生き方の実現に向けて、現在の学習や将来の進路についての課題を見だしすることができる。 主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献すること、自己の将来について、適切な情報を収集して考え、意思決定して実践している。	将来の生き方を見通したり、これまでの生活や学習を振り返ったりしようとしている。 働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとしている。



特別活動においては、特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすという
ことから、設置者ではなく、「各学校で評価の観点を定める」としています。

各学校で定めた「評価の観点」に基づいて、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成するとともに、全教職員で共有することが大切です。



4. 指導と評価の計画を作成する

特別活動自体は他教科のような単元計画というのではなく、年間を見据えた学校行事や学級活動と関連付けて、「事前・本時・事後」の一連の活動と評価計画をつくるのが望ましいですね。

一連の活動と評価(例) 中学校第2学年の「体験活動を学校生活につなごう」



特活

時間	ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的態度
学校行事・始業式	「一年後のゴールを設定しよう」 ○ねらい ・学校教育目標(キャリア教育目標)、学年目標から自分のこの1年間の目標を設定する。 ○活動 ・「キャリア・ノート」に1年間の目標を記入する。	学校や学年教育目標を踏まえ、個人目標の設定方法を身に付けている。	1年間でありたい自分を表現している。	主体的に「キャリア・ノート」を活用して自己の学びを見直し、振り返ろうとしている。
学級活動	「4ヶ月後のゴールを設定しよう」 ○ねらい ・前回立てた1年間の目標から1学期の目標を設定する。 ○活動(個人) ・キャリア・ノートに1学期の目標を記入する。 ・1学期の目標を掲示する。	自分の1年間の目標を踏まえ、1学期の個人目標の設定方法を身に付けている。	自分の1学期の目標を表現している。	1学期の目標と職場体験を関連付けようとしている。
学校行事	「自分を知ろう」 ○ねらい ・職業適性検査を通して自分の特性を知る。 ○活動 ・職業適性検査を受ける。 ・職業と適性の関係を知る。	検査の結果を参考にして、自分の適性や興味を理解している。	自分の適性や興味から職場体験活動への見直しをもととしている。	自分の適性や興味から職場体験活動への見直しをもととしている。
大分県版「キャリア・ノート」				
職場体験活動を実施(中略)				
本時	「体験活動を学校生活につなごう」 ○ねらい ・職場体験活動で学んだことをまとめ、今後の学校生活に生かす。 ○活動 ・職場体験活動で学んだことを「キャリア・ノート」にまとめる。		職場体験活動で学んだことを自己と関わらせながら、「キャリア・ノート」に表現している。	担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。
学級活動	「1学期を振り返ろう」 ○ねらい ・職場体験活動を含め、1学期の活動を振り返る。 ○活動(個人) ・1学期の活動についてまとめ、2学期の目標を考える。		職場体験活動を含めた1学期を振り返り、表現している。	1学期を振り返ることにより、2学期への見直しをもととしている。

5. 指導と評価の計画をもとに、本時の評価規準を具体的にします

【単元の評価計画にある本時の評価規準】

- ・職場体験活動で学んだことを「キャリア・ノート」に表現している。
- ・担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。

【具体的にした目指す生徒の姿】

具体的にします

- 自分の適性や興味から設定した目標と実際の職場体験活動の活動が合致していたかを判断している。
- 担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。

A児「職場でのあいさつ、準備片付けの大切さは、学校生活と同じだった。今後意識して生活したい。」
「十分満足できる活動の状況」と評価

指導要録に「○」を付ける

特別活動では、学級担任以外の教師も指導を行いますから、多面的・総合的に評価するとともに、本時だけでなく事前・本時・事後の一連の学習過程の中で評価できるようにしたり、一定期間に実施した学級活動や学校行事を評価規準に基づきまとめて評価することも大切ですね。

